

石井公一郎先生を悼む

石井公一郎先生の訃報に接し、痛悼已むこと能はず。

思へば、石井先生と我々文語の苑との関係は、極めて深きものあり。

先生は文語の苑發起人の枢要なるお一人なるのみならず、實は最も有力なる支援者・理解者としても知る人ぞ知るところなり。何よりも文語への情熱にかけては、誰にも負けぬものありて、毎年帝國ホテルにて開催されたる文語の苑総会には、いつも出席せられ、冒頭に有益なる御挨拶を賜ることを恒例とせり。或る時にはお若き頃石井好子様などご家族の間にて愛誦せられたる三好達治の詩「乳母車」を朗々と朗讀せられたること、今となりては懐かしく想ひ出づ。

石井先生は大正十二年生れ、いはゆる學徒出陣の世代にして、文語の使ひ手としては第一級の方なれば、改めて文語の世界に於いては巨星墜つの感あり。

正漢字百字の普及（先生曰く、實に貝の字無くばありがたみ無しと。）など、石井先生のライフワークとせられしことを、我々も引き継いで、微力ながら文語普及に努めて参る所存なり。

合掌

令和四年四月十二日

NPO法人文語の苑理事長

土屋 博